

2018年5月 YOKOHAMA WTS FINISH PART MANUAL

高柳佳恵
(2018/5/6)

本内容は、フィニッシュエリアにおける円滑且つ安全に大会を実現する運営マニュアルである。

1. コース図(含む要員配置)

別紙「フィニッシュゾーン図」参照

2. 要員計画

(1) 人員構成 (敬称略、打合せ後再配置予定)

CTO	高柳 佳恵	統括、フィニッシュ後対応
SCTO	篠原 永年	統括補佐、フィニッシュ後対応
TO1	篠原 風沙	着順記録 1
TO2	新津桂一郎	着順記録 2
TO3	市川 硬一	フィニッシュ後対応
TO4	山崎和宣	横断路対応
TO5	塚越 景	横断路対応
TO6	吉村 隆男	横断路対応
TO7	山内大一郎	横断路対応
整理員(整)	4名	
ボランティア (V)	25名	

(2) 配置及び主要役務

1. 通り抜けエリア

TO (4名) : 横断路対応。ファスナー、レースナンバー注意、及び柵扉開閉のコントロールを行う。

整理員 (2名) : コースを横切る観客のコントロールを行う。

2. フィニッシュゲートエリア

TO (5名) : フィニッシュ地点対応、レースナンバー確認、着順判定、フィニッシュ後の選手誘導。

整理員 (2名) : 選手出口管理。

ボランティア : 計測チップ (アンクルバンド) 回収、飲食物配布、タオル配布、フィニッシュテープ配置員 4名。(25名うち女性4名)

3.競技運営手順

(1)情報連絡ルート

- ・事故、障害、トラブル等が発生した場合は、発生場所を担当するスタッフ(テクニカルオフィシャル、、整理員、ボランティア)は、後続の選手に影響が出ないように緊急対応する。
- ・緊急対応後速やかに、「発生場所・時間」、「けが人の状態」、「レース No」、「人数」、「対処内容」等をCTO(SCTO)に報告する。
- ・CTO(SCTO)は、状況把握をし、本部へ報告する。

(2)フィニッシュ規則

- ・着順は、計測チップがフィニッシュライン上に達した瞬間とする。
- ・ただし、複数の競技者が同時にフィニッシュする場合は、TO が判定をおこなう。(競技者の胴体の一部がフィニッシュラインを通過した瞬間を判定)
- ・着順記録はフィニッシュゲートを通過した順にレース NO を記録用紙に記載する。
タイム計測で同時フィニッシュにおける同着タイムがあった場合には着順記録にて着順を確認できることとする。
リタイヤした選手が確認できた場合に同記録用紙にレース NO を記載することが望ましい。
- ・FINISH ラインを通過した選手はその時点で正式タイムとし、いかなる場合も戻ることはいできない。

(3)事故発生時対応

- ・後続選手の安全を第一に、競技が大きな支障もなく続行できることを優先して対処する。
- ・状況により速やかに第一報の連絡を、CTO に報告する。報告内容は、発生場所・時間、状況、人数、レースNo、対処等を簡潔におこなう。

(4)リタイア時対応

- ・本人からの申出により、再確認後、次の対応をおこなう。
- ・競技の邪魔にならないようコースの端かコース外に選手を移動させる。
- ・アンクルバンドを取り外す。
- ・レースNo、時間、理由等を、本部に連絡する。
- ・体調不良者については、メディカル担当に連絡し、適切な処置をしてもらう。

(5)ゾーン管理

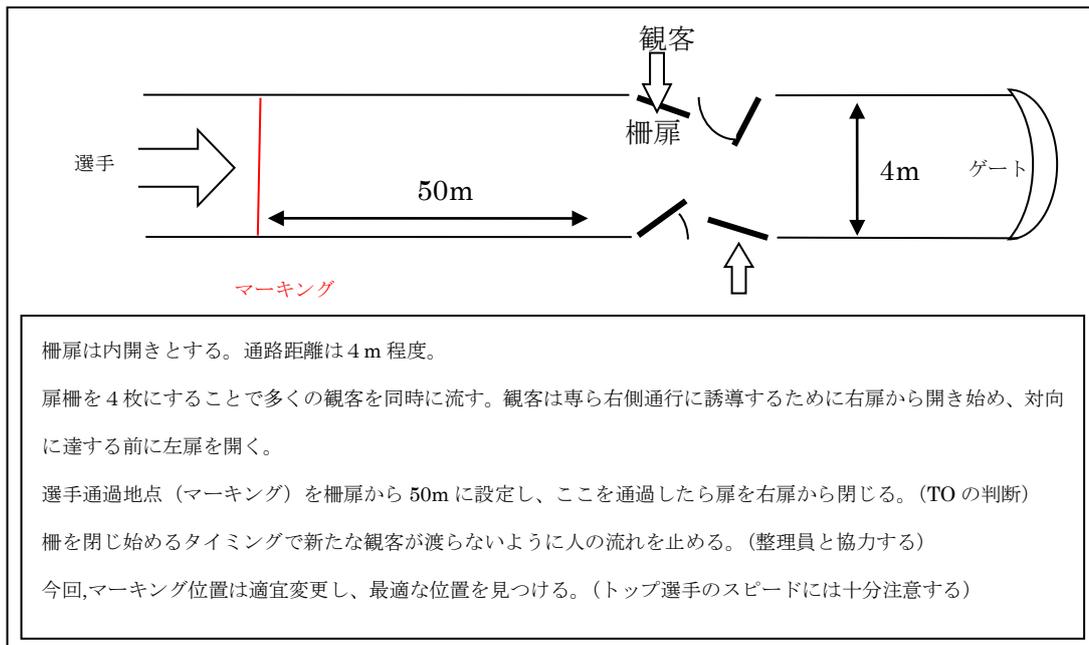
フィニッシュ関連ゾーンには、競技選手(リレーチームはランパート選手) および関係者以外は立入禁止とする。

①コース内整備

- ・担当するエリアを事前に視察し、危険箇所の確認や必要機器が適切に配置されているかを確認し、競技が支障なく遂行できるようにする。

②通り抜けエリアの観客誘導方法

- ・選手入場と観客誘導のタイミングは下図の通りとする。



③フィニッシュゾーン入場前のアナウンス

- ・ファスナーを下げている選手の注意を行う。「ファスナーを上げてください」
 - ・サングラスをはずすよう喚起する。「サングラスを外してください」
 - ・レース No は前から見える位置にするよう喚起する。「レースナンバーを前へ」
- いずれもジェスチャーと共に声掛けすると選手は分かりやすい。

周回確認は選手の自己確認である。問い合わせを受けた際は規定周回を答えること。

（スタンダード 2.5 周、スプリント 1.25 周）

④案内板の設置

- ・コース上の注意を喚起するために案内板を設置する。
「周回不足確認」「注意事項」等、選手が分かりやすい表現記述する。
- ・設置場所はフィニッシュゾーン入り口とする。

⑤フィニッシュ後の選手の誘導

- ・フィニッシュ後は、速やかに選手をアンクルバンド回収場所へ誘導する。アンクルバンド回収エリアでは、椅子と回収箱を用意して選手自身に取外して入れてもらうことを原則とするが、疲労し自分自身で取外しができない場合は、ボランティア要員が手助けをして速やかに取外しをする。（女性のアンクルバンドは女性スタッフが取り外す。）

バンド回収が終了した者は、飲食物、タオル配布コーナーへ移動させる。

- ・飲食物、タオルを受取った選手は速やかに出口に誘導する。

⑥救急対応

- ・救急対応の必要な選手等が発生した場合は、メディカル担当または救護所と連携して対応する。
- ・救急対応が必要とする選手等は、救護テントに搬送または誘導し、適切な手当てを受けさせる。
- ・救護テントで手当てを受ける選手等について、レース番号、状態、時間、人数等を速やかに本部に連絡する。
- ・冷却水を準備し、コース内及びフィニッシュ直後の選手に対応する。

⑦同伴フィニッシュの禁止

- ・フィニッシュに於いて選手以外の家族、チーム等の同伴フィニッシュは禁止とする。リレーチームについてもランパート以外の選手の同伴フィニッシュを認めない。

⑧前空きファスナー着用選手に対してはファスナーが下がっている選手に対して注意喚起を行い、修正される間は stop&go による対応とする。また、TO の喚起に応じない場合はペナルティを課す場合がある。

4.競技結果

- ・すべての競技が終了した際は速やかに着順の報告を本部に連絡する。
- ・上位選手の着順が決定した場合に速報を本部に連絡する。着順確認は機械によるチップ計測記録と着順記載内容を照合すること。

5.機材、用具、事前用意

- ・コース設営が図面通りになっているかを確認し TO が競技観点での修正を行う。
- ・冷却水入れクーラー（メディカルと連携）
- ・着順記載紙の準備（レースナンバーとおおよその時間を記入する。
また、各カテゴリー毎に上位の選手は着順を記載する）

6.制限時間

- ・スタンダード：スタート後 3 時間 45 分
制限時間 11:00～13:55（スタート 7:15～10:10）
- ・スプリント：スタート後 2 時間
制限時間 13:00～13:20（スタート 11:00～11:20）
- ・特にスタート時間の変更については本部と無線により確認する。
- ・スタート時間に FINISH ゲートの時計をスタートする。

7.緊急避難

- ・地震、津波等の警報発令時は、選手、スタッフを安全な場所（高台、高層ビル等）に誘導する。

8.TO としての心得

- ・TO は常に見られている。その自覚を持って行動する。
- ・選手への言葉遣いは丁寧に。
- ・一般客への対応は「ご協力をお願いします。ご理解ください」の精神で。
- ・整理員、ボランティアとの意思疎通を図る。
- ・周回数を聞かれる（スタンダード 2.5 周、スプリント 1.25 周）
- ・レース開始時間、トイレの場所を聞かれる。しっかり答えられるように。

9.その他（備品）

- ・ **FINISH** テープはエイジ専用のものを利用する。
- ・ **FINISH** ゾーン左折案内板の設置（ランパートからの左折位置）
- ・ 着順記録用テーブル&椅子(2脚)
- ・ 通り抜け通路の柵扉については1.8m幅のプラ柵を4枚利用する。
- ・ ラウンジ内で選手に提供する飲食物のごみを分別するごみ箱等を準備する。

10. パラトライアスロンについての対応

- ・ パラトライアスロン選手の荷物は男女ともに **FINISH** ラウンジにて預かる。
- ・ 6:00 までに選手が持参した場合に **TO** で対応し、ボランティアスタッフ配置後はボランティアに引き継ぐ。
- ・ 選手の **FINISH** 地点での停止のフォローを行う。特に競技用車椅子使用の選手においては、フィニッシュゲートを通過した車椅子がメディアエリアに衝突することが無いよう、車椅子の後部を持って停止させるサポートを行う。

以上

別紙：フィニッシュゾーン図.pdf

